

## 大雪山国立公園の課題・要望等

\* 今回のアンケート結果及び関係市町から寄せられた課題(第1回検討会資料2-3)を整理したもの

| 項目        | 課題   | 要望・提案・解決策  |
|-----------|--|--|
| 動植物に関すること |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒグマの出没対策</li> <li>・新世代クマへの対応</li> </ul>  |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・エゾシカが激増したことによる、森林生態系の劣化</li> <li>・エゾシカ出没による交通事故の多発</li> <li>・エゾシカが増え、高山植物帯に無数のシカの足跡</li> <li>・キツネによるキャンプ場のテント破損</li> <li>・キタキツネやエゾシカを道路沿いでよく見かける</li> <li>・餌とゴミの影響による一部野生動物の出現増加</li> <li>・ササが広がり、高山植物帯が狭まっている印象</li> <li>・餌付けされた動物が増えている</li> <li>・植物の踏みつけが進んでいること</li> </ul> |  |
|           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物などの盗掘防止</li> <li>・自然公園法の行為規制や罰則適用を、特定希少種指定して加重するように出来ないか。</li> </ul>   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウスバキチョウを初めとする北方の希少な蝶類が、マニアの間で乱獲の対象になっている点。</li> <li>・営林署に許可を得てしか入れない地域に、しばしば昆虫採集の人がいるのを見かける。</li> <li>・外来生物の繁殖</li> <li>・山麓域における外来植物の侵入増加</li> <li>・外来植物種の増加とダムへの外来魚放流の懸念</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園法に基づく指定動物の種指定が進められているが、併せて巡視体制の構築が急務と考えられる。</li> </ul>   |
|           |  |  |
|           |  |  |
|           |  |  |
|           |  |  |
|           |  |  |
|           |  |  |
| 景観に関すること  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用と景観、環境等の保全のあり方やバランスについて合意形成がなされていない。</li> <li>・台風被害地の原生景観への早期復旧。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭岳石室のところにある鐘をロープウェイ駅に移設すべき。</li> <li>・ロープウェイ駅舎などが景観を阻害している。</li> <li>・生活圏内での看板設置に係る許可基準の緩和</li> <li>・サイン等も統一が必要。特に天人峡温泉などは景色を楽しめないほど行政機関による各種の看板が乱立している。</li> </ul>  |
|           |  |  |
| 登山道に関すること | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道の拡幅、荒廃。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道の整備(自然が破壊されないような方法で登山道が整備されることを望みます)</li> </ul>   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山者のストック使用による高山植物への影響</li> <li>・登山道の荒廃が進行しているが、補修を含めた維持管理の仕組みが確立していない</li> </ul>   |  |
|           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・崖崩れ箇所のある登山道の安全対策</li> <li>・登山道のササ刈りについて、指導体制の整備及び自然公園法規制の緩和</li> <li>・オーバーユースの施設的対策として自然工法の研究を深められないか。愛山溪から当麻乗越までの間に採用された工法は一つのヒント。</li> <li>・自然と調和した登山道を充実して欲しい。</li> <li>・写真を撮るために平気で周りを踏み荒らす人が多い。いっそ、手すりつきの道路にして、脇に行けないようにしたらどうでしょう。もしくは、登山規制がいいと思います。</li> </ul> |
|           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道と交差する雪渓の管理。雪渓をわたる時に登山道から外れ、登山道に戻る際に植物を踏みつける例が多い。植生への影響は相当に大きいと考えられるが、管理・対策がぬるい。</li> </ul>  |

| 項目             | 課題   | 要望・提案・解決策   |
|----------------|--|---|
| トイレに関すること      | ・入り込み数の増加によるトイレの不足。  | ・トイレの整備   |
|                | ・トイレ不足等による環境の悪化(水質、土壌汚染、高山植物の踏みつけによる草類の枯死、踏跡による裸地化)  | ・トイレ付き避難小屋整備<br>・携帯用トイレの処理箱を増やす。  |
| トイレに関すること      | ・キャンプ地のトイレ問題   | ・バイオトイレを整備すべき。黒岳石室のように協力金では不十分なので、コインを入れて通れるようなゲート方式(アメリカの地下鉄のような)はどうか。   |
|                | ・南沼宿営地のトイレの問題(水場の無くなる夏は特に深刻)。<br>・様々な管理上の取り組みがみられるのに、統制がとれていない。たとえば、北海道は携帯トイレの使用を登山者に呼びかけているが、回収の体制が整っていないところもある。                                  | ・トイレの問題。行程が長いので必要だと思うが、日帰り等は事前に用を足すような自己マナーの徹底が必要である  |
| 地域的な方針に関すること   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団施設地区計画の見直し</li> <li>・特別保護地区等その利用を厳しく規制すべき所はより規制し、それ以外の所は利用のしやすさや地域振興等につながる管理計画を期待。</li> <li>・沼の原、大沼のテント泊指定地が大抵水没している。宿営近くの登山道にテントを張っている人もいる。この場所は登山道から近く、クマの出没もあり、宿営指定地から外してもいいのでは？</li> <li>・三川台は事実上、宿営地となっている状態。今後はどうすることになるのか？十勝岳方面から縦走してくる場合、南沼まで一日で行くのは行程的に無理がある場合あり。</li> <li>・全体としての山岳地の管理計画がない。たとえば扇沼の歩道はどのように今後扱われるのか？公園計画に記載されていないとはいえ、実際に利用は増加しており、扇沼山山頂などは野営地化しつつある。</li> <li>・山中の施設の整備水準が合理的ではない。避難小屋は実質は山小屋として利用されている。野営指定地でもありながら、美瑛富士にはトイレがない。</li> </ul> |
|                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の登山道、野営指定地、林道への利用者の集中</li> <li>・赤岳周辺、トムラウシの日帰り登山ルートがオーバーユースになっている。</li> <li>・秋の紅葉時期のマイカーの渋滞問題</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉時期の交通渋滞緩和対策</li> </ul>  |
|                |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・39号が産業道路としての位置づけもあるので、トラック等の交通量が多い。また、観光客の数も増えてゴミやトイレの問題もある。思い切って39号を観光用道路にして、観光客も大雪山全体で人数制限をしたらどうか？</li> </ul>   |
| その他の施設整備に関すること | <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持費</li> <li>・登山道入口までの道の整備不良</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備の推進、老朽化施設の改築促進</li> <li>・駐車場の整備</li> <li>・避難小屋の整備、維持補修</li> <li>・標識の整備等による山岳事故未然防止</li> <li>・火山防災施設の整備及び優先性</li> <li>・お鉢平周辺の登山道脇のポール。下界のガードレールに使われるような材質・色のものがあり、あの場所にそぐわない。</li> <li>・自然探勝を兼ねたウォーキングや短期(1泊以下)登山に応じた施設整備</li> <li>・トイレを含む休憩・サービス施設の不足、登山者等の大自然派ではなく、ビギナーにも自然を満喫できるアプローチ的な空間が無い</li> <li>・自然は大事だと思うが、ロープウェイ等のインフラは整備してもよいのでは、と思う。</li> <li>・豊かな自然環境に気軽に接する方法が思い当たらない(雨竜沼湿原や洞爺湖の火山散策路のような)</li> <li>・観光に関する道路整備や観光整備</li> </ul>                           |

| 項目                 | 課題  | 要望・提案・解決策  |
|--------------------|---|--|
| マナー・安全管理<br>に関すること | ・登山者のモラルの低下   | ・百名山等、一部の山岳地域への利用者の集中が問題ではないか。入山制限、入山料徴収、登山口へ通じる林道の車両通行を制限する等、オーバーユースの対策が必要  |
|                    | ・ゴミのポイ捨て<br>・観光客や登山者のマナー  | ・ゴミ回収の徹底、ゴミ放置禁止の啓蒙   |
|                    | ・ツアー観光客のマナー<br>・ゴミ問題、テントも持たずに縦走、キャンプ地に大型テントはりっぱなし、希少植物踏み荒らし     |  |
|                    | ・ゴミの不法投棄  |  |
|                    | ・観光客のマナーと民間経営者の環境への意識改革   |  |
|                    | ・スノーモビルの乗り入れ  |  |
|                    |   | ・天候不良時の登山者への行動制限に対する強制力<br>・崩落や交通事故など、安全対策は重要だと思う。安全が確保されていないと安心して観光も出来ないと思う。  |
|                    | ・林道の走行マナー   | ・安全走行の確保<br>・幹線交通ルート(39号線等)の歩行者、自転車、マイカー、業務車両(特にトラック)の事故防止策。   |
| その他                | ・環境の保全  |  |
|                    | ・現状を維持すること  |  |
|                    | ・観光と環境の両立   |  |
|                    | ・各種規制事項と観光資源の有効活用との両立(バランス)。大雪山は上川町の地域振興に寄与することから規制面と資源開発の両立が必要 |  |
|                    | ・保護と利用のバランスの不均衡   |  |
|                    | ・公園計画における林業の位置づけ  |  |
|                    | ・国立公園特別地域での造林の必要性   |  |
|                    | ・林業施業における作業道の設置方法   |  |
|                    | ・知名度は高いが行くとどういことが楽しめるのか情報提供が少ない。                                |  |
|                    |   | ・明治45年太田龍太郎の「石狩川上流霊域保護国立公園の経営の件」(現・大雪山国立公園のこと)また霊山碧水(太田龍太郎命名)の名を入れた歴史を例えば層雲峡の公園とかビジターセンターにも表示してください。<br>・登山者より入山料を徴収し、国立公園整備振興基金に充てる施策。<br>・協力金も様々な取り組みがみられるが、考え方や徴収方法など統一が必要では？行政機関の敷居の違いなど、一般の利用者には何の意味もない。混乱を生み出しているだけ。<br>・ロープウェイのお金が高すぎる。価値観の違いがあるにせよ気軽に触れあえる場としてはどうか。国の財産はより多くの人々が共有するべきでは。もし本当に自然を残したいのなら、全ての立入を禁止にすべきと思う。<br>・シーズン最盛期の交通対策を十分に行う必要がある。特に、渋滞や排気ガスは多くの国立公園で問題になっているが、それに加えてCO2を排出する自動車を野放しにしておくのは問題である。自然とのつきあいを学ぶ場である国立公園であるからこそ、環境行動への促しを率先して進めるべきである。そのためには、シャトルバスやパークアイランド、自動車のグループ利用の促進など、CO2排出を減らすという観点からの交通対策を更に進めるべき。又、公園内の宿舎についても、環境への配慮という点からの取り組み(グリーン認証、環境配慮への助成策など)を進める必要がある。 |